

即湯水栓(即湯器)

EG-1S1,
EG-1S2

商品の機能が十分発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。

この説明書は、施工完了後、お客さまにお渡しください。
また定期的に点検が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

施工時には必ずお守りください

以下は安全のための注意です。施工前に必ず読み、施工時に必ずお守りください。
この説明書では、誤った施工による事故を未然に防ぐため、工事者または使用者の安全に関する注意事項にマークをつけて表示しています。
マークの意味は次の通りです。施工前によく読み正しく施工してください。

●用語および記号の説明

| | | |
|--|-----------|---|
| | 警告 | 作業を誤った場合に、設置作業者が、又は設置工事の不具合によって人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。 |
| | 注意 | 施工を誤った場合に、人が傷害を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。 |
| | | 「注意しなさい!」(上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。) |
| | | 「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。) |
| | | 「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。) |
| | | 「必ずアース接続をしなさい!」 |

警告

- アース工事は電気設備技術基準等、関連する法令・規則等に従って、必ず「法的有資格者(電気工事士)」によるD種接地工事(100Ω以下)を行ってください。また漏電遮断器を設置してください。
※故障や漏電時に感電の恐れがあります。
- 使用する電源、消費電力を本体の定格銘板で確認し、必ず適した配線をしてください。
※火災の原因となります。
- 屋外には設置しないでください。
●屋内でも水がかかったり、表面に結露が生じたりするような湿気の多くなる所、特に浴室やシャワールームには設置しないでください。
※故障や感電の原因となります。
- 修理技術者以外の方は、絶対に分解・修理は行わないでください。
※火災や感電の原因となります。
- 内部配線や電源コードの切断・圧着は絶対に行わないでください。
※火災や感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っばったり、ねじったり、束ねたり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。
※電源コードが破損し、感電・火災の原因となります。
- 水道水(水道事業者が供給する上水)以外の水を使用しないでください。
※早期に機器が破損し、感電・漏水の原因となります。

注意

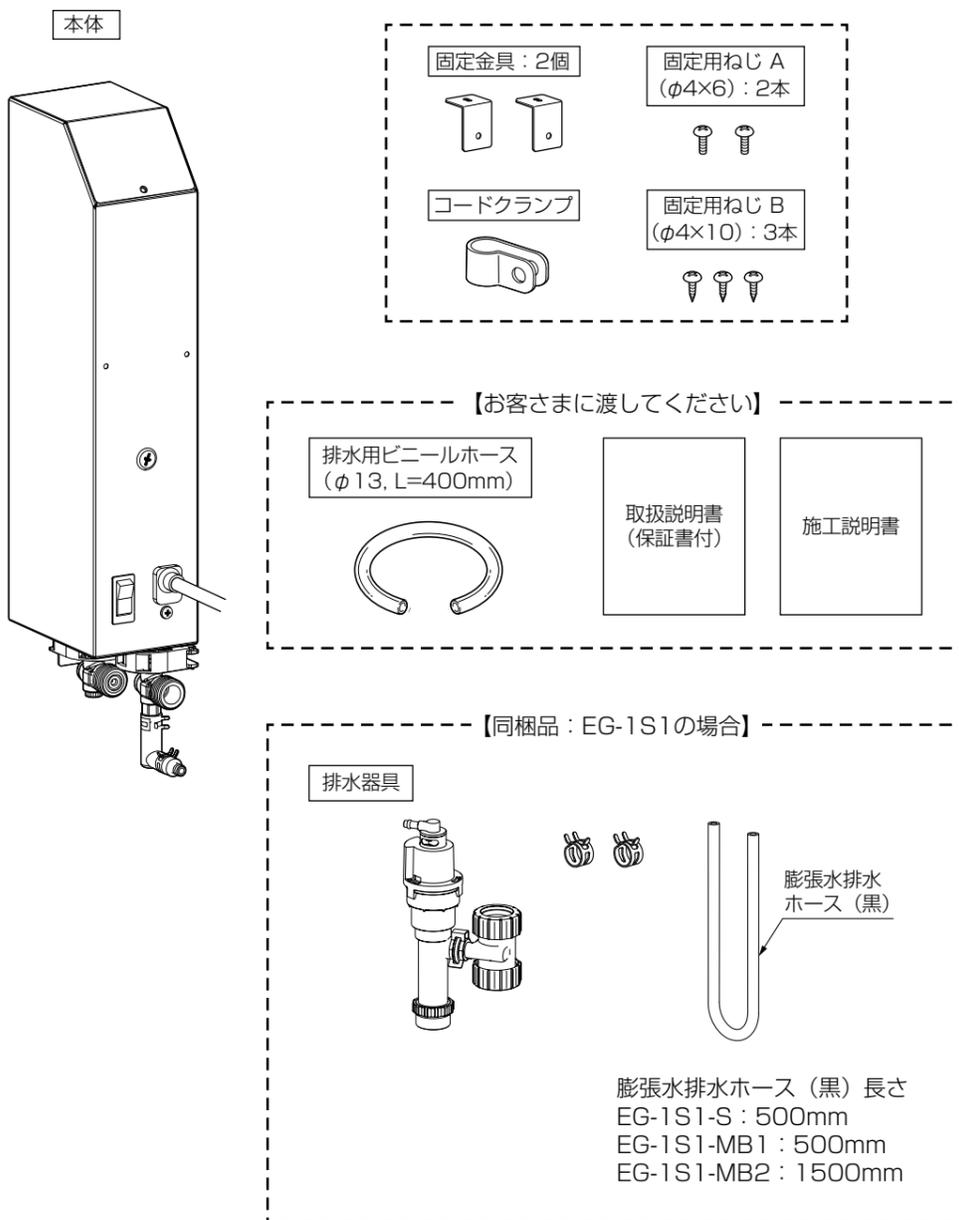
- 必ず機器内のタンクを満水にしてから、運転スイッチを「入」にしてください。
●給湯機器は80℃を超える設定温度にしないでください。
※機器の破損やヤケドの恐れがあります。
- 機器を横にしたり、上下を逆にした状態で設置しないでください。
●車両や船舶内に設置しないでください。
※機器の故障、ヤケド、漏電、漏水の恐れがあります。
- この機器は太陽熱温水器との接続はしないでください。
※水栓から湯が出なかったり、温度が不安定になったり、著しく出が悪くなったりする恐れがあります。
- 機器を水栓より上に設置しないでください。
※機器が破損し、漏水の恐れがあります。
- この機器は、給水圧力0.05(流動圧)~0.75MPa(静水圧)の範囲でご使用ください。
※水圧が高い地域に設置した場合、止水時に缶体内部の水圧が高くなり、膨張水口から水がふき出し続ける恐れがあります。
- 必ず給湯配管に接続してください。
●給湯機器との配管長さは最大13m(15A配管)、6m(20A配管)までとしてください。
※湯切れする恐れがあります。
- 膨張水口からの膨張水排水ホース(黒)は、確実に配管施工してください。
※漏水の恐れがあります。
- 水栓への接続は1ヵ所までにしてください。2ヵ所以上に接続しないでください。
●浴室用水栓に接続しないでください。
●この機器を2台以上連結させて使用しないでください。
※水栓から湯が出なかったり、著しく出が悪くなったりする恐れがあります。
- 単水栓に接続しないでください。
※ヤケドの恐れがあります。
- 自動水栓オートマージュAなど、流量2.5L/min以下で使用する水栓金具と組み合わせないでください。
※通水時に機器内の空気が抜けず、お湯が出ない恐れがあります。
- 壁裏、天井裏、床下、点検ができない場所などへ設置しないでください。
※日常点検、水抜き、故障時の修理などができなくなる恐れがあります。
- 凍結の恐れがある場合は、機器の水抜きを行ってください。
※機器の漏水や破損の原因となります。
- 新築・改修工事後や、水道断水の復旧後、必ず配管内の空気を抜いてください。
※配管内に空気が混入した状態で給水器具を使用すると、器具・配管の破損や故障の原因となり、けがをしたり水漏れによって建物、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。
- 機器に強い力や衝撃を与えないでください。
※故障や漏水の原因となります。
- 排水器具の下流側の排水管にトラップ構造を設けないでください。
※ダブルトラップで排水不良となり、排水器具から漏水する恐れがあります。

1.仕様

| 品番 | EG-1S1, EG-1S2 |
|---------------|--|
| 本体寸法(突出部寸法含む) | 幅80mm×奥行115mm×高さ447mm |
| 本体質量(満水時) | 約2.2kg(約3.4kg) |
| 給水方式 | 先止め式(直圧式) |
| 使用水圧範囲 | 0.1MPa(流動時)~0.75MPa(静止時) ※自動水栓と組み合わせる場合は、流動時で0.1MPa以上 |
| 逃し弁設定圧力 | 吹き始め:0.95MPa 吹き止り:0.75MPa以上 |
| 電源コード | 有効長さ1.0m 接地極付きタイプ |
| 定格電圧 | AC100V(50/60Hz) |
| ヒーター能力 | 360W |
| タンク容量 | 約1.2L |
| 出湯温度 | 約36℃~給湯機器設定温度 ※出湯温度は変更できません。 |
| わかあがり時間 | 約17分(15→80℃) |
| 発熱体構造 | シーズヒーター |
| 自動温度調節器 | バイメタル方式(自動復帰式) |
| 温度過昇防止器 | バイメタル方式(手動復帰式) |
| 使用可能雰囲気温度範囲 | 0~40℃(ただし凍結しないこと) |

2.同梱品一覧

施工前に同梱部品を確認してください。



■セット品の内容

| 品番 | 排水器具 |
|--------|----------------|
| EGS-1S | EFH-6:手洗器・洗面器用 |
| EGK-1S | EFH-6K:洗面化粧台用 |
| EGM-1S | EFH-6MK:キッチン用 |

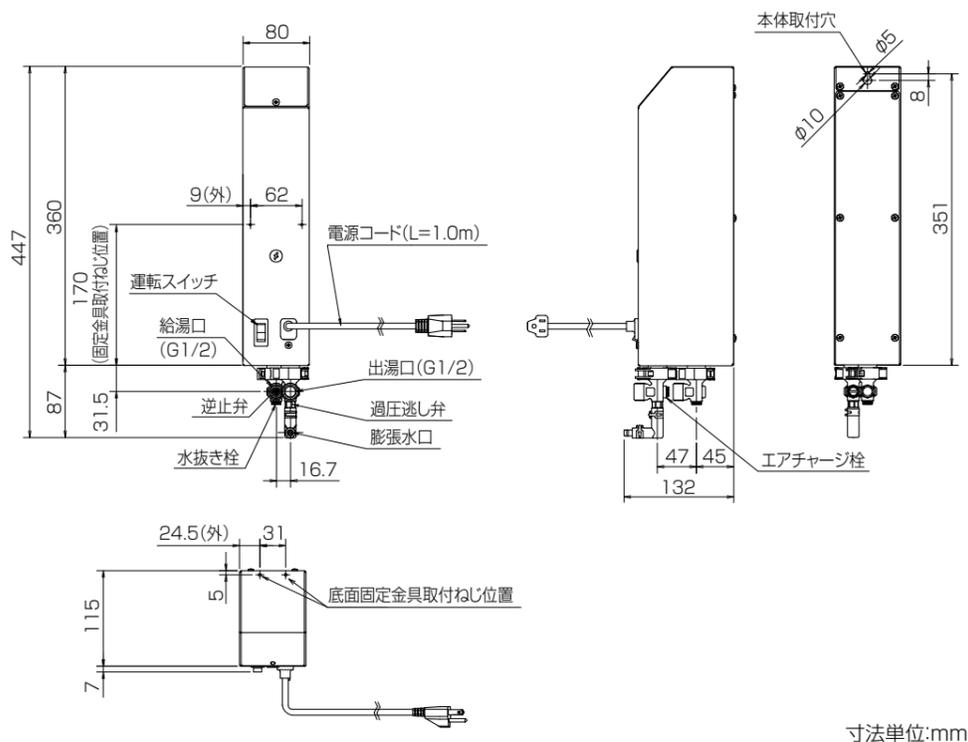
3. 別売品一覧 ☆は必須別売部品

| 品名 | 品番 | 備考 | 外観概略 |
|--------------------|---------|--------------------------------|------|
| ☆ 排水器具 手洗器・洗面器用 | EFH-6 | φ25・φ32金属排水管共用 壁排水・床排水対応 | |
| ☆ 排水器具 洗面化粧台用 | EFH-6K | φ32樹脂排水管用 ジャバラ管床排水用 | |
| ☆ 排水器具 キッチン用 | EFH-6MK | 1.5インチ・2インチ排水管共用 床排水用 | |
| ウィークリータイマー | EFH-TM4 | 即湯水栓(即湯器)へ通電する時間を設定する場合に使用します。 | |

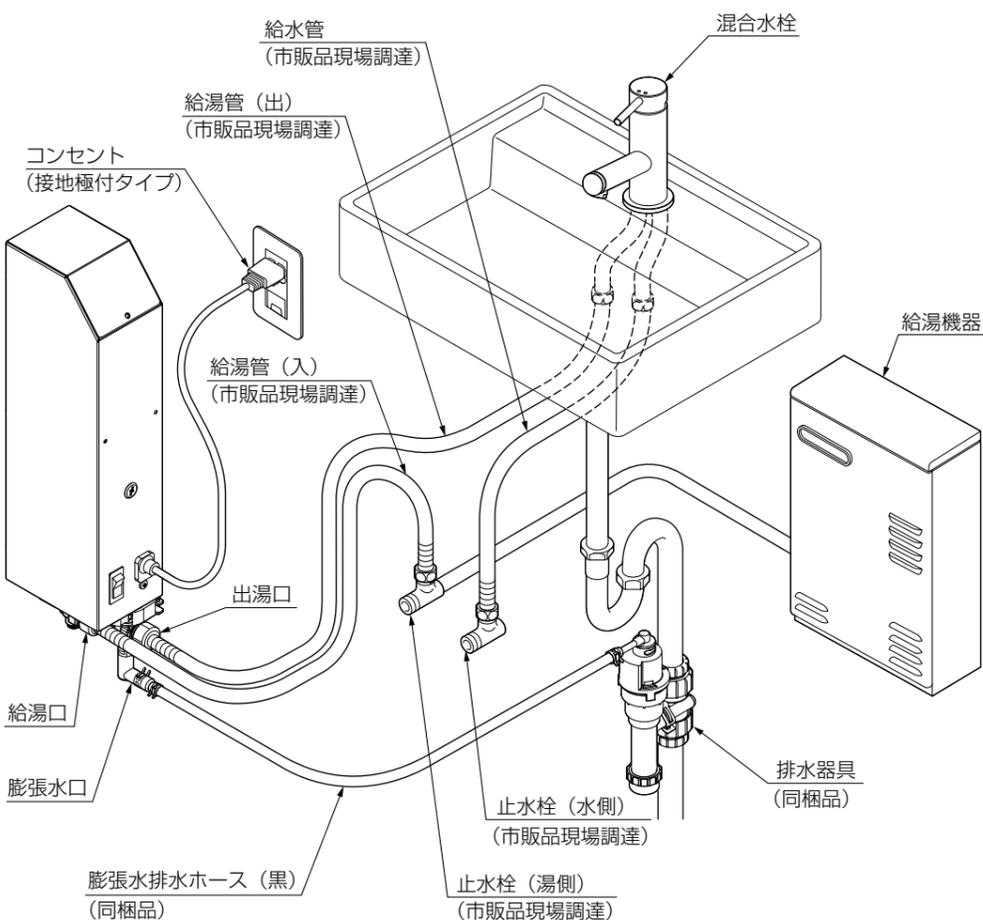
その他現場での調達品

ステンレスフレキシブル管(1/2B、呼び径13mm)、止水栓、1/2B耐熱シートパッキン、ニップル、シールテープ

4. 寸法図



5. 標準施工例図



6. 取付け手順

※即湯水栓(即湯器)を取り付ける前に、洗面器、カウンターや水栓金具をそれぞれの施工説明書に従い、取り付けてください。

<取付けの流れ>

- ①取付準備
- ②即湯水栓(側湯器)の固定
- ③機器への配管
- ④膨張水排水ホース(黒)の接続
- ⑤電源コードの固定

離隔距離について

この温水器は、「消防法告示第一号(対象火気設備等及び火気器具等の離隔距離に関する基準)」に適合しています。建築物の可燃物等からの離隔距離は表に掲げる値以上の距離を保ってください。ただし、修理点検の際にメンテナンスを実施できるスペースが必要となりますので、その分のスペースは確保してください。

| 消防法基準適合組込型 | | | | | |
|-----------------|----|----|----|----|----|
| 可燃物からの離隔距離 (cm) | | | | | |
| 上方 | 左方 | 右方 | 後方 | 下方 | 前方 |
| 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

※LIXIL製化粧台とセットする際、即湯水栓(即湯器)の設置スペースを確保するために、標準化粧台と給排水位置を変更する必要がある場合があります。

6-1. 取付準備

(1) 取付空間の確認(標準施工 本体取付穴を使用する設置の場合)

本体の取付けには、下記の空間が必要となります。

| 幅 | 奥行き | 高さ |
|------|-------|-------|
| 80mm | 135mm | 460mm |

※排水器具の取付条件は、排水器具の説明書をご確認ください。

(2) 取付強度の確認

※この機器は、満水時の質量が約3.4kgになります。取付強度が十分であることを確認して、取付位置を決めてください。

【乾式壁の場合】

即湯水栓(即湯器)の固定金具を取り付ける位置に、厚さ10mm以上、幅90mm以上の補強が入っていることを確認してください。

【湿式壁の場合】

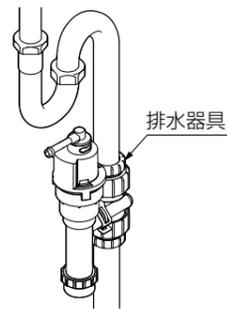
同梱の固定用ねじB(呼び径4mm 長さ10mm)にあったプラグを用意してください。

(3) 排水器具の取付け

同梱の排水器具を排水器具同梱の施工説明書に従って取り付けます。

⚠ 注意

- 排水器具は、各部から漏れの無いよう確実に取り付けてください。
- ※漏水の恐れがあります。

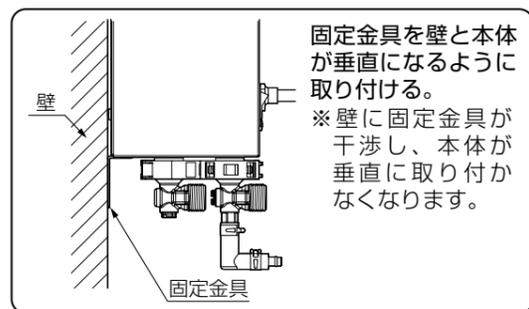
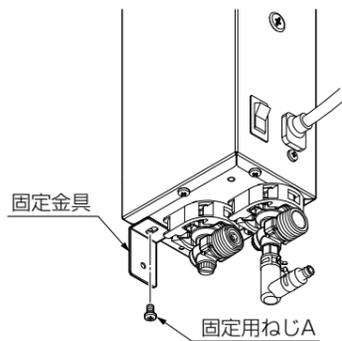


6-2. 即湯水栓(即湯器)の固定

(本機器は本体取付穴を使用する固定、本体取付穴が使用できない場合の固定の2種類の固定方法に対応)

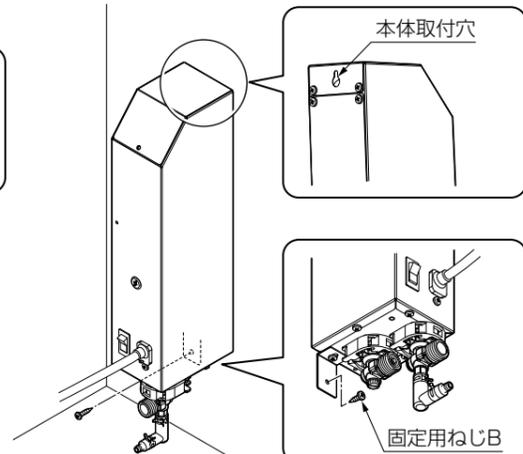
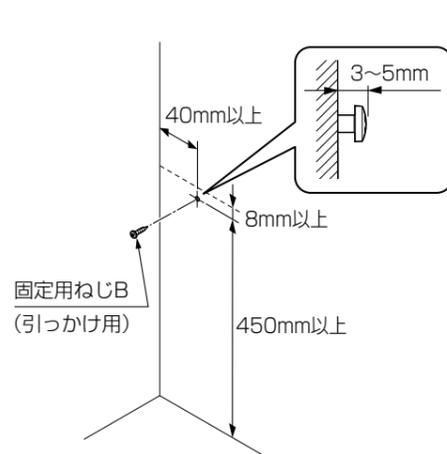
【本体取付穴を使用して引っかけて固定する方法】

①即湯水栓(即湯器)への固定金具の取付け(1ヶ所のみ)



②壁への取付け

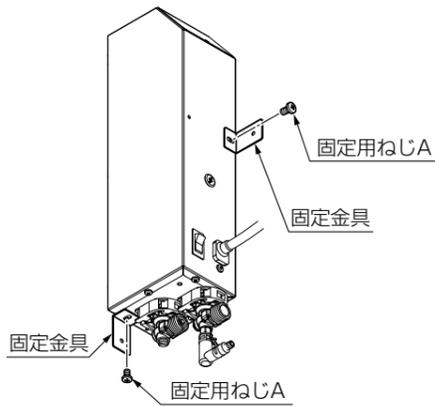
- (1) 引っ掛け用に固定用ねじBを壁に取り付ける。
- (2) 固定用ねじBに本体取付穴を引っかける。
- (3) 下部の固定金具を固定用ねじBで壁に固定する。



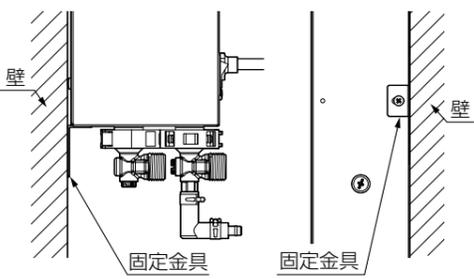
【本体取付穴が使用できない場合の固定方法】

カウンター、洗面器等にドライバーが干渉し、引っ掛け用の固定用ねじBが壁に打てない場合、下記のように固定してください。

①即湯水栓(即湯器)への固定金具の取付け (2ヶ所)

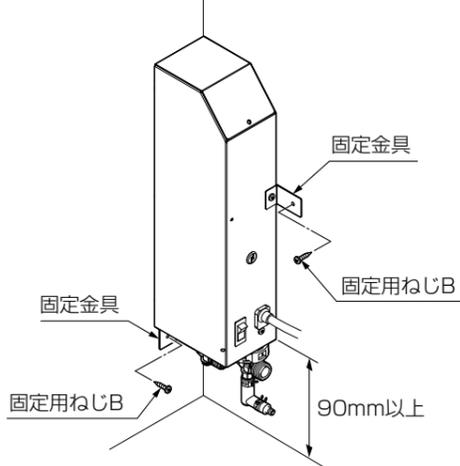


固定金具を壁と本体が垂直になるように取り付ける。
 ※壁に固定金具が干渉し、本体が垂直に取り付かなくなります。



②壁への取付け

固定金具 (2ヶ所) を固定用ねじBで壁に固定する。



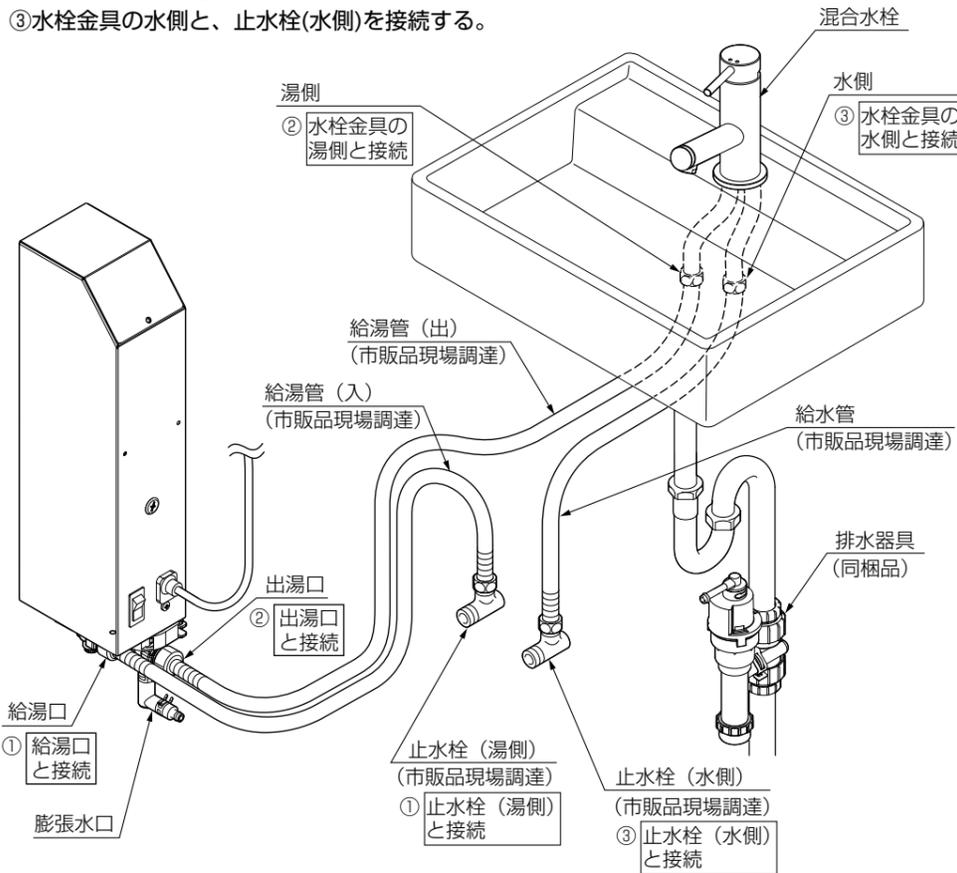
6-3. 機器への配管

⚠ 注意

- この機器は0.75MPaを越える高水圧地域では使用しないでください。
 ※機器が破損し、漏水の恐れがあります。
- ステンレスフレキシブル管の接続は必ずスパナ2丁を使用するなどして、取り付ける相手の機器に無理な力がかからないよう注意して接続してください。
 また接続部には、必ず耐熱シートパッキン (以下パッキンと呼ぶ) を使用して接続してください。
 ※漏水の恐れがあります。
- 機器を接続する前に、30L程度の水を流し、配管内のゴミ等を取り除いてください。
 ※機器にゴミが侵入し、故障の恐れがあります。
- 機器への配管は、市販のステンレスフレキシブル管 (1/2B、呼び径13mm) を使用してください。
- 機器を接続する前に、配管の漏水・耐圧検査を実施してください。

【混合水栓への取り付け】

- ①止水栓(湯側)と、機器の給湯口を接続する。
- ②水栓金具の湯側と、機器の出湯口を接続する。
- ③水栓金具の水側と、止水栓(水側)を接続する。



⚠ 注意

- 機器の給湯口と出湯口を逆に接続しないでください。
 ※高温のお湯が出て、ヤケドの原因になります。

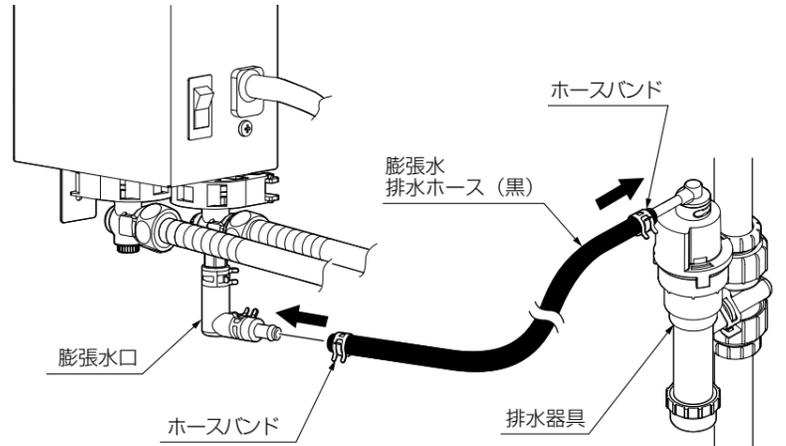
6-4. 膨張水排水ホース (黒) の接続

⚠ 注意

- 膨張水排水ホース (黒) は確実に配管施工してください。
 ※漏水の恐れがあります。

- 膨張水排水ホース (黒) を、機器の膨張水口に接続する。

- 排水器具の取付けは、排水器具付属の施工説明書をご覧ください。
- 必ずホースバンドを取り付けてください。



- 排水器具に付属の排水ホース (黒) が、膨張水口まで届かない場合は、別売の膨張水排水ホース (黒) (EFH-1M、内径φ7×1m) を使用してください。
- 排水器具のホース接続口が膨張水口より高い位置にあっても、膨張水の排水に影響ありません。

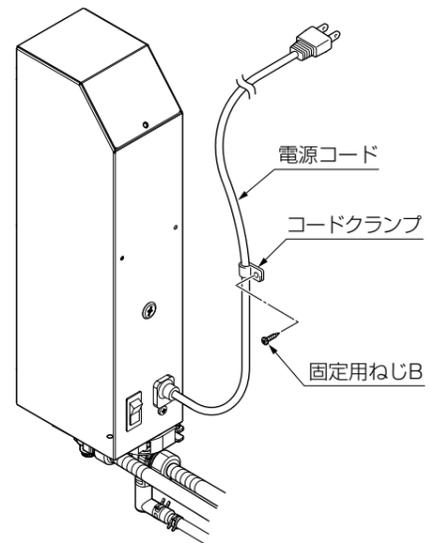
6-5. 電源コードの固定

【電源コードが扉、引出し等に干渉し、傷つく恐れがある場合】

- 必要に応じて、扉、引出し等に干渉しないように電源コードを付属のコードクランプと固定用ネジBで壁に固定する。

⚠ 注意

- 電源コードが扉、引出し等に干渉しないか必ず確認してください。
 ※電源コードが傷ついたり、破損したりした場合、感電・火災の原因となります。



7. 電気工事

⚠ 注意

- 漏電遮断器を必ず設置してください。
- 必ずアースを接続してください。
- アース工事は電気設備技術基準等、関連する法令・規則等に従って、必ず「法的有資格者 (電気工事士)」によるD種接地工事 (100Ω以下) を行ってください。
 ※故障や漏電時に感電の恐れがあります。
- 内部配線や電源コードの切断・圧着は絶対に行わないでください。
- 内部配線や電源コードを補修する必要がある場合は、現場で加工せず専用補修部品と交換してください。
- 使用する電源・ヒーター能力 (定格消費電力) を本体の定格銘板で確認し、必ず適した配線をしてください。また電源プラグの変更は絶対に行わないでください。
- コンセントの電圧を必ず確認してください。100V用コンセントに200Vが供給されている場合は、電気工事をやり直してください。
 ※感電や火災の原因になります。

- ①本機器専用に「接地極付コンセント」を用意する。
 機器の取付位置より 1.0m 以内の所にコンセントを設けてください。
- ②コンセントに D 種接地工事を行う。

| 品番 | 定格電圧 | ヒーター能力 | コンセント形状 | 推奨コンセント (パナソニック製) |
|------------------|--------|--------|---------|-----------------------------------|
| EG-1S1 EG-1S2 | AC100V | 360W | | WN1101 WF3002B/WK WF3003B/W |

⚠ 注意

- 形状の違うコンセントが取り付けられている場合は、コンセントを取り替えてください。機器の電源プラグの変更はできません。

8. 施工後の確認・処置

8-1. 膨張水排水ホース（黒）の確認

機器の取付けが完了したら、以下の点を確認して、必ず膨張水排水の配管が行われていることを確認してください。

- ①専用の排水器具が取り付けられていること。
- ②排水器具が目視で垂直に取り付けられていること。
- ③排水器具と機器の膨張水口が確実に接続されていること。

8-2. 通水確認

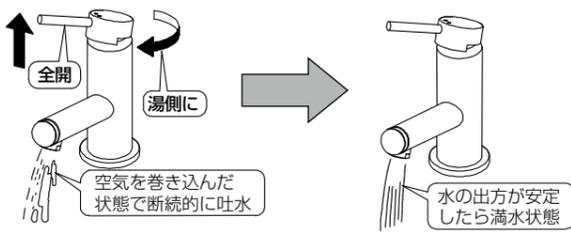
注意 ●必ず機器内のタンクを満水にしてから、運転スイッチを「入」にしてください。
※機器の破損や、ヤケドの恐れがあります。

- ①給水管・給湯管（入）・給湯管（出）が確実に接続されていることを確認する。
- ②【給湯機器が「瞬間式」の場合】
給湯機器の運転スイッチを「切」にする。
※給湯機器に運転スイッチがない場合は給湯機器の電源プラグを抜いてください。
【給湯機器が「貯湯式」の場合】
給湯機器の設定温度を設定可能な最低温度（38℃以下推奨）にする。
※給湯機器の設定温度を38℃以下に設定できない場合は、④の作業にて吐水を3分程度実施し、以降の作業を実施してください。
給湯器の温度を38℃以下に設定できない場合、吐水したときに空気を巻き込んだ状態になることがあります。

注意 ●空気の巻き込みがなくなるまで運転スイッチを「入」にしないでください。
※機器の破損やヤケドの恐れがあります。

- ③止水栓（湯側）を開ける。
- ④水栓金具の湯側を全開にして吐水する。

吐水が安定するまで続けてください



タンクが満水になるまで約3分かかります。

- ⑤止水栓（水側）を開け、水栓金具の水側についても同様の操作を行う。
- ⑥水栓金具を閉め、各部に漏れがないか確認する。
- ⑦【給湯機器が「瞬間式」の場合】
給湯機器の運転スイッチを「入」にする。
※給湯機器の電源プラグを抜いた場合は、電源プラグを元に戻してください。
【給湯機器が「貯湯式」の場合】
給湯機器の設定温度を元に戻す。

8-3. 流量調整

止水栓（湯側、水側とも）で流量を調整をする。
止水栓を回して、洗面器から水ハネしたりオーバーフローしたりしないようにします。

注意 ●必ず止水栓で流量調整してください。
※水ハネや湯切れなど、トラブルの原因になります。

8-4. 機器への通電

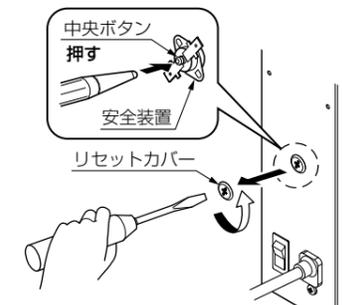
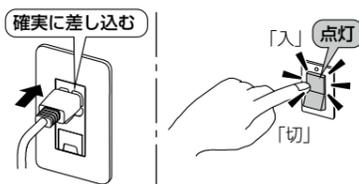
注意 ●必ず機器内のタンクを満水してから、運転スイッチを「入」にしてください。
※機器の破損や、ヤケドの恐れがあります。

- ①電源プラグをコンセントに確実に差し込む。
- ②運転スイッチを「入」にする。

【運転スイッチを「入」にしてもスイッチ部が点灯しない場合】

安全装置が作動していることが考えられます。
いったん運転スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後、機器本体のリセットカバーをドライバーで取り外し、ボールペンの端などで機器内にある安全装置の中央ボタンを押し込んでください。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

注意 ●運転スイッチが「入」のままで、リセットカバーを外さないでください。
※感電の恐れがあります。



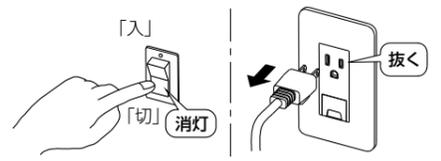
【取外し時、取付け時の注意】

取外し時：リセットカバーを反時計方向に回すと、約1回転で外れます。
取付け時：リセットカバーを時計方向に回すと、約1回転で取り付きます。
※リセットカバーの締め込みすぎに注意してください。

9. 水抜き方法

機器の設置後、引渡しまでに凍結の恐れがある場合は、以下の手順で機器の水抜きを行ってください。

- ①運転スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜く。



- ②【給湯機器が「瞬間式」の場合】

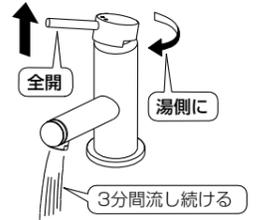
- (1) 給湯機器の運転スイッチを「切」にする。
※給湯機器に運転スイッチがない場合は給湯機器の電源プラグを抜いてください。
- (2) 水栓金具の湯側を全開にして、吐水が水になるまで流し続ける。



注意 ●必ず機器内の湯を出し切ってください。
※機器内に湯が残っていると、水抜き時にヤケドの恐れがあります。

- ③【給湯機器が「貯湯式」の場合】

- (1) 給湯機器の設定温度を設定可能な最低温度（38℃以下推奨）にする。
※給湯機器の設定温度を38℃以下に設定できない場合は、排水の温度が高温になる場合があります。注意して水抜き作業を実施してください。
- (2) 水栓金具の湯側を全開にして、3分間流し続ける。



- ③水栓金具の湯側を開けたまま、止水栓（湯側）を閉める。
- ④止水栓を閉めたあと、水栓金具を閉める。
- ⑤水栓金具の水側でも同様の操作を実施する。

注意 ●必ず機器内が水になっていることを確認してから水抜き栓を開けてください。
※高温の湯で、ヤケドの恐れがあります。
【給湯機器が貯湯式の場合】
●給湯機器の設定温度を38℃以下に変更できない場合は、排水温度が高温になる可能性があります。注意して水抜き作業をしてください。

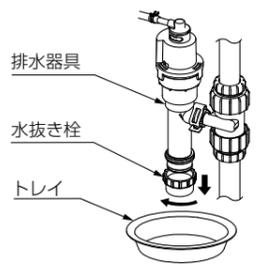
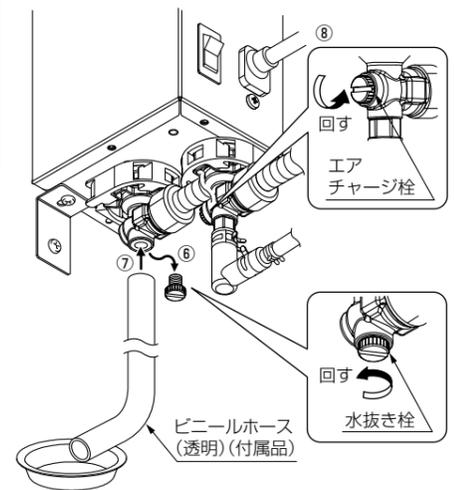
- ⑥水抜き栓を外す。
- ⑦付属の排水用ビニールホース（透明）を水抜き栓に差し込み、反対側はトレイ等で受ける。
- ⑧エアチャージ栓を開ける。

水抜き栓を外してからエアチャージ栓を開けてください。
※水抜き栓を閉めた状態で開けるとエアチャージ栓から水が出てきます。

- ⑨排水終了後、水抜き栓、エアチャージ栓を元にもどす。

■排水器具の水抜き

- 排水器具の水抜き栓を開ける。
- ・水抜き前には、排水器具下部に水を受けるトレイ等を準備してください。
 - ・水抜き後には、必ず水抜き栓を取り付けてください。



10. 施工後の最終確認

全ての作業完了後、引き渡す前に、下記の表にて最終確認をしてください。

| 確認事項 | 確認内容 | チェック欄 |
|------|--|-------|
| 電源電圧 | 施工した機器に合った電圧がコンセントに供給されているか | |
| 排水器具 | 付属品の排水器具が施工されているか | |
| 漏水 | 内部の配管・タンクや配管接続部から漏水がないか | |
| 流量 | 水栓の施工説明書に合った流量になっているか （※）流量が少ない場合は、水栓金具のストレーナの掃除を行う | |
| 保証書 | 必要な内容を記載したか | |

確認後、取扱説明書、施工説明書、排水用ビニールホース（透明）をお客さまにお渡しください。

株式会社 LIXIL

お問合せ先

お客さま相談センター商品相談窓口

ナビダイヤル TEL 0570-017-173

受付時間平日 9:00～18:00

土日・祝日 9:00～17:00

（ゴールデンウィーク、夏期、年末年始の休みは除く）